

個体群管理の結果について

○春期の捕獲・混獲結果のまとめ（値はすべて速報値）

春期捕獲期間においては、定置網及び刺し網により 106 個体のゼニガタアザラシを捕獲した（2月に学術研究のため試射により試験捕獲した1個体（成獣・オス）を含む）。混獲については、漁業者からの提供や情報提供により 11 個体が確認された（表 1）。

捕獲された個体の年齢構成については、幼獣が多かった（74.5%）。性比については、全体として顕著な偏りは見られなかった一方で、成獣はメスの比率が高かった（図 1）。

なお、本資料においては、成長曲線に基づく推定年齢が 5 歳以上の個体を成獣（性成熟した個体）とし、4 歳以下の未成熟個体のうち 0 歳及び 1 歳の個体を幼獣、2 歳から 4 歳の個体を亜成獣と区分した（回収不能の混獲個体については漁業者による年齢推定も含む）。

表 1. 春期の捕獲及び混獲結果の総括表

	個体数	内訳
捕獲	106 個体（♂47、♀59） 幼獣 : 79（♂38、♀41） 亜成獣 : 7（♂4、♀3） 成獣 : 20（♂5、♀15）	定置 : 24、刺し網 : 81、 学術調査（銃試射） : 1
混獲	11 個体（♂3、♀3、性不明5） 幼獣 : 5（♂2、♀3） 成獣 : 2（性不明2） 年齢不明 : 4（♂1、性不明3）	定置 : 5、タラバ漁等の刺し網 6

※その他、刺し網で捕獲された幼獣♀3頭を、個体識別の標識等を装着して放獣

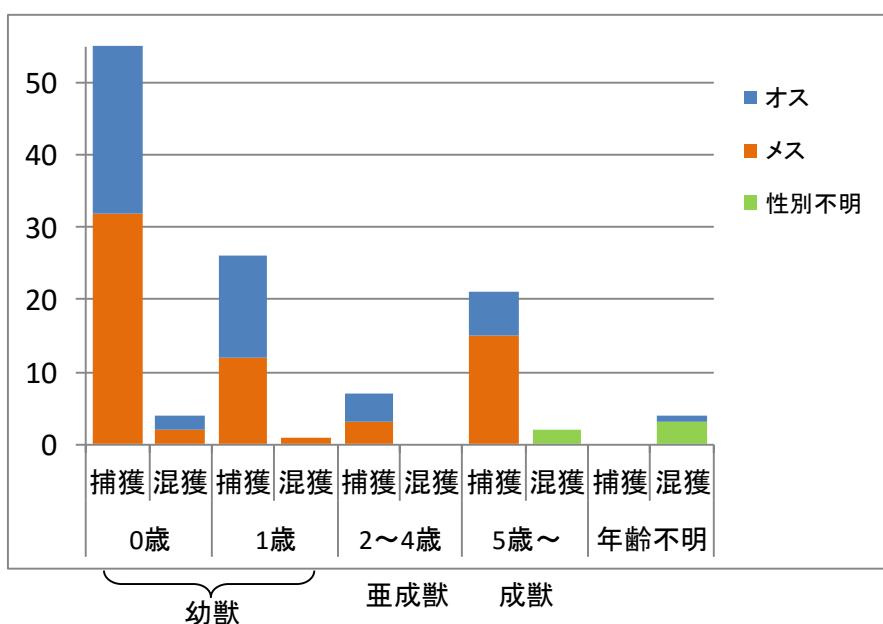


図 1. 春期の捕獲及び混獲個体の推定年齢及び性別

<手法別捕獲結果>

① 定置網による捕獲

春期に定置網を実施している東洋地区で定置網漁業者の協力を得て、捕獲用として入り口に漏斗式の網を装着してゼニガタアザラシが脱出しづらくした網（図2）を5月下旬から6月下旬までのべ36日間、設置したところ、24個体が捕獲された。捕獲個体の年齢構成は亜成獣以上が18個体と多く、性比は成獣がメスに偏っていた（表2）。

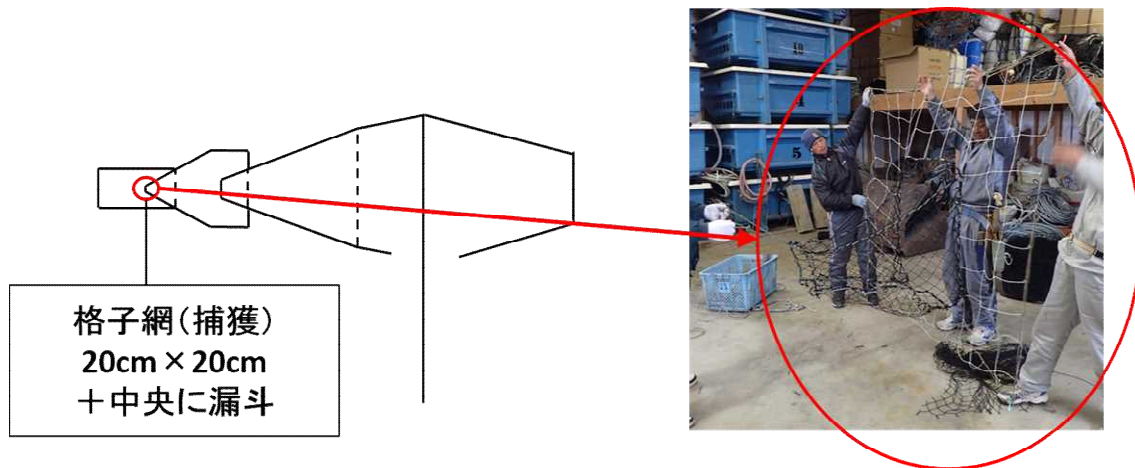


図2. 捕獲用格子網の構造

表2. 春期の定置網捕獲の総括表

方法	期間	結果
定置網 (捕獲用)	捕獲網設置期間： 5月22日～6月26日(36 日間設置、33回網起こ し) (施業期間：5/19-7/1)	24個体 幼獣：6(♂4、♀2) 亜成獣：2(♂2) 成獣：16(♂5、♀11)

当初、漏斗の出口を30×30cmとしたところ、1週間で7個体の成獣を捕獲することができたが、水中カメラの映像から、漏斗式格子網を出入りする個体が確認されたことから、漏斗出口のサイズを変更したり、出口にゴムを装着したりするなどの工夫を行った。捕獲個体数と漁獲尾数の間に顕著な関係は確認されなかった（図3）。

その後も捕獲数は少ないものの、亜成獣・成獣が断続的に捕獲されており、被害を及ぼしていると思われる亜成獣以上を捕獲する有効な方法であることが確認された。一方、サケがほとんど捕獲されておらず、今後とも、漁業者、有識者の意見を踏まえ、捕獲網の構造等を改良していく必要がある。

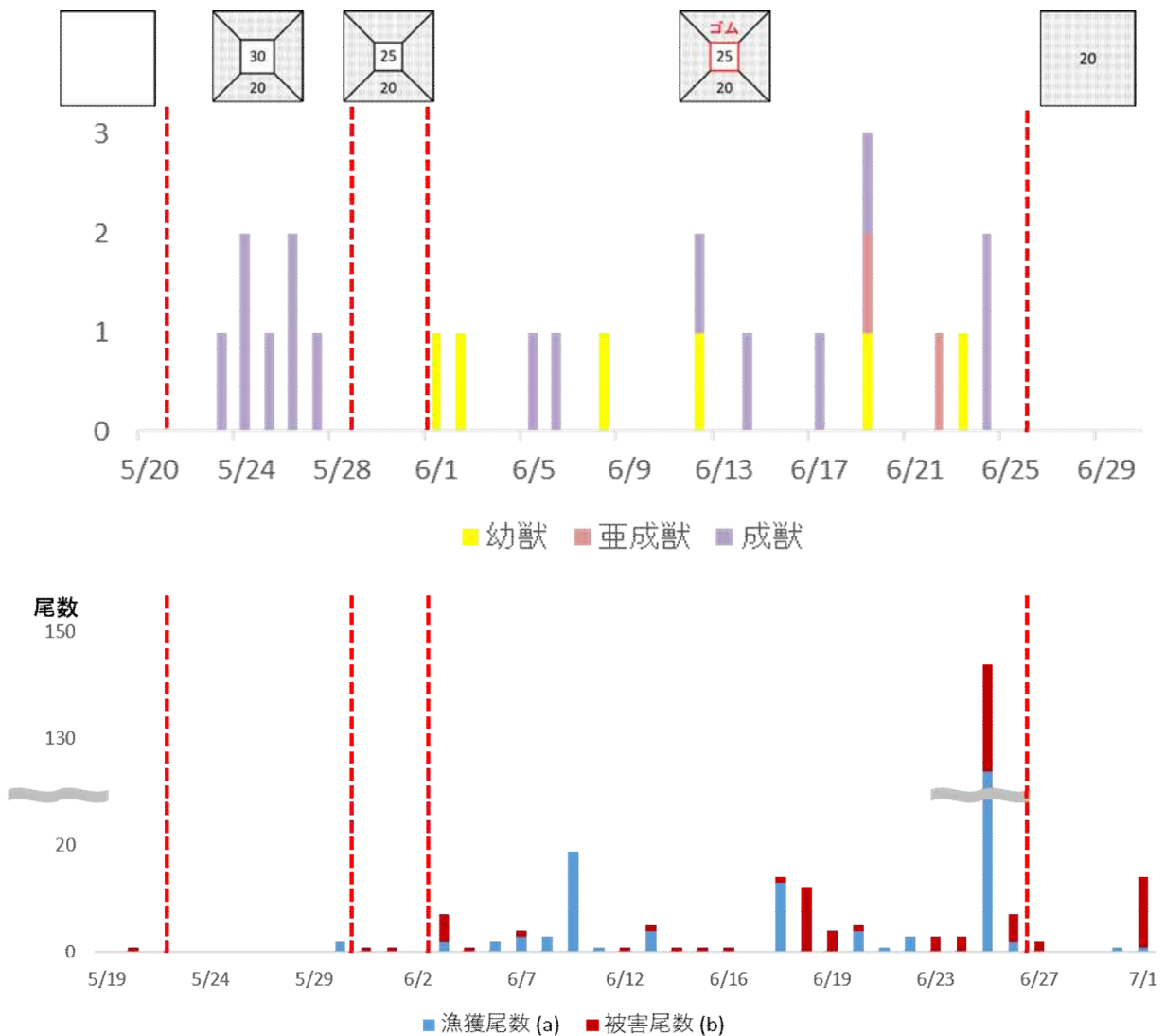


図3. 上：設置した捕獲網の種類とアザラシ捕獲状況
下：同網における漁獲尾数と被害尾数

② 刺し網による捕獲（7月7日現在）

襟裳岬岩礁付近において、漁業者の協力を得て5回（1回あたりの海上での作業時間はおよそ3時間程度）、刺し網による捕獲を実施し、81個体が捕獲された（表3）。捕獲個体の年齢構成は81個体のうち72個体が幼獣であった。性比については幼獣・亜成獣に顕著な偏りはなかったが、成獣はメスのみが4個体捕獲された。

表3. 春期刺し網捕獲の総括表

方法	実施回数	結果
刺し網 （襟裳岬岩礁付近 4回、西岩礁1回）	5回 実施日：5月31日 6月5, 7, 13, 27日	81個体 幼獣：72（♂33、♀39） ※学術調査のため放獣した幼獣♀3個体を含まない 亜成獣：5（♂2、♀3） 成獣：4（♀4）

平成28年秋期（9月下旬～11月初旬にかけて8回実施）は1回あたりの平均捕獲数が4個体だったのに比べ、平成29年春期は平均約16個体と大幅に増加した（表4及び図5）。捕獲個体にはpupが多く、産まれたばかりのpupは運動能力の低さや学習期間の短さから捕獲が容易であったことが考えられる。

今回の結果から春期の早い時期に刺し網を行うことで捕獲数を増やすことが可能と考えられるが、亜成獣以上の個体は刺し網を認識して避ける様子が確認され、捕獲個体がpupに偏らないよう捕獲方法を今後、検討する必要があると考えられる。また、学習効果等による捕獲効率の低下が発生しないか、他の時期での捕獲効率等を確認していく必要がある。

試験的に、爆竹を鳴らし驚かせて亜成獣以上の捕獲を1度試みたが、幼獣が3個体捕獲されたのみで、亜成獣以上は捕獲できなかった。（捕獲した幼獣3個体は調査研究のため、標識等を装着して放獣した）

表 4. 刺し網による捕獲の実施状況

実施日	設置数等	捕獲数	実施場所
5月31日	12反	17個体 幼獣♂6♀9、亜成獣♂1、成獣♀1	岬岩礁
6月5日	12反	11個体 幼獣♂6♀4、成獣♀1	西側岩礁
6月7日	12反	22個体 幼獣♂7♀11、亜成獣♂1♀1、成獣♀2	岬岩礁
6月13日	12反	31個体 幼獣♂14♀15、亜成獣♀2	岬岩礁
6月27日	12反 亜成獣以上を捕獲するため、爆竹を併用	3個体 幼獣♀3 (学術調査目的に放獣をしたため個体群管理としてはカウントしない)	岬岩礁

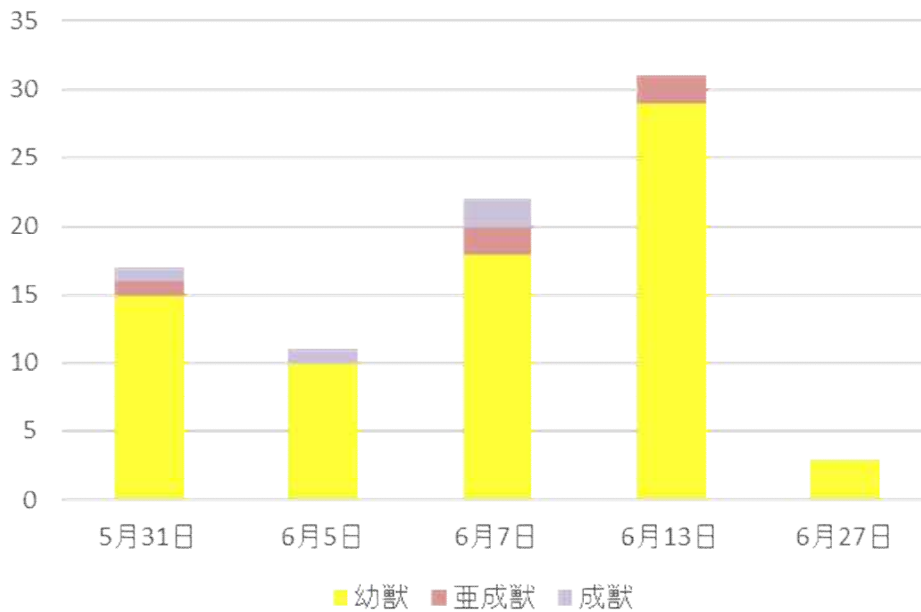


図 4. 実施日ごとの捕獲結果

<動物福祉について>

定置網、刺し網で捕獲された個体は、獣医師により麻酔を用いて安楽殺等を行った。

定置網で捕獲された個体は 24 個体中 1 個体（成獣メス）のみ死亡個体であった（表 5）。また、刺し網については、漁業者の協力を得て設置時間をできるだけ短くしたり、有識者の助言を踏まえて浮きのサイズを変更したりすることで、昨年 7 割ほどであった生存率を 9 割以上にすることができた（表 6）。

表 5. 定置網を用いた捕獲結果

	幼獣	亜成獣	成獣	計
生体	6	2	15	23
死体	0	0	1	1
計	6	2	16	24

表 6. 刺し網を用いた捕獲結果

	幼獣	亜成獣	成獣	計
生体	71	5	4	80
死体	4	0	0	4
計	75	5	4	84

※学術調査のため放獣した幼獣 3 個体を含む